

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行

浄土真宗本願寺派

万行寺 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾461-1

電話 0267-67-2460



■住職法話

続・本当のご利益とは…

■仏事のイロハ

僧侶への「報酬」ではありません

■住職 子育て日記

■お知らせ

■編集後記

Photo

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、朝晩は寒いくらいになりました。それとも、今までが暑かったからのでしょうか。体調は崩してませんか。この時期はコスモスがあちこちで咲いています。

住職 法話

続・本当の「利益」とは…

三年前の二〇〇九年は、長野の善光寺は御開帳の年でした。秘仏の前立本尊を、七年に一度公開するという大きな行事です。全国各地から、その秘仏をもとめてお参りする方が大勢います。この年の四月の万行寺寺報（第四十号）

の私の法話に、この話題を載せたことを思い出しました。

この御開帳にあわせ、報道に向けて、善光寺大本願の鷹司上人が、「仏教の精神を見直して」と題し、人間同士や生きとし生けるものへの優しさを持つことの大切さという味わい深い言葉を述べておられたことを書きました。それに対して、同じ報道に向けて、

いま何かと話題の善光寺大勧進の貫主は、社会状況を憂い、参拝に来てもらい周りが潤うことを願うようなコメントを発していたことを例にあげて、本当の「ご利益」とは何かということにふれさせていただきました。

当時は、肩書きにはふれませんでした。どちらが仏教者としてのコメントなのかを問いたい話題でもありません。また、寺の役割というのは、本来の仏の教えを離れ、人集めの出来る場所にしか見えてないのではないかと感じるところです。

さらに、鷹司上人のコメントには光るものがあり、信

濃毎日新聞の善光寺御開帳特集号に、次のような言葉を載せられていたようです。

「七年に一度ずつ御開帳が行われるという事は、惜しい欲しい憎らしい等の煩惱におぼれ、とかく怠けがちな私どもの心に反省や信仰増進を促す警策をあてられる機会ではないでしょうか。」

警策とは、座禅中に見回りの方が姿勢の悪い人の肩を叩くあの棒のことです。人間の煩惱の表現を「惜しい欲しい憎らしい」というわかりやすい言葉に変えています。七年に一度の御開帳を、ただ勤めるだけではなく、仏さまの教えにふれる大切なご縁として位

置づけられています。

浄土真宗も親鸞聖人七五〇回大遠忌法要という五十年に一度の法要が勤められました。親鸞さまは「私を縁にしなさい」と仰り、ご門主も、多くの方が仏さまの教えにふれる法縁にしてほしいと仰っています。今は、一般寺院での大遠忌法要をすすめています。万行寺も、来月の報恩講にあわせて勤めさせていただきます。お参りをするご利益があり、儲かって生活が潤うのではなく、もつと大切な仏さまの教えというご利益をいただきますよう。



ハロイの事 僧侶への“報酬”ではありません

僧侶への“報酬”ではありません

法事や月忌参りなど、僧侶を招いて仏事を勤める時、御布施がわたされますが、この御布施の“額”が気になる人がいます。「いくらぐらいのお包みすればよいのでしょうか。あまり少ないと失礼ですのぞ」と

いった調子です。多すぎて困ることはないのですが、要は「相場」を聞きたいのでしょう。しかし、そういうお尋ねがあつても私はできるだけ金額を言わないようにしています。それは、御布施が「自ら進んで上げる」性質のものだからです。ただ言えることは「よろこんでさせていただく

気持ちが大切である」ということでしょう。

そうした金額を気にするよりも、もっと考えていただきたいことは、御布施本来の意味です。

習慣化される中で、私たちはつい、御布施を一種の“報酬”のように捉えていやしないでしょうか。僧侶が読経したことに對する代価、御礼として扱ってしまいがちです。しばしば、表書きに「御経料」とか「回向料」と記した金封に出会いますが、これなどはまさしく僧侶への報酬の感覚です。「御経料」

「回向料」「御礼」とはせず「御布施」とする)。

布施というのは、そもそも仏教の大切な行の一つで「ほどこす」という言葉です。その布施行には、法を説く「法施」、財物を施す「財施」、畏怖の念を抱かせない「無畏施」があります。金封の「御布施」は、このうちの財施にあたるわけです。

さらに、これらの布施を行う場合、施す人と施される人、施し物の三つがともに清浄でなければなりません。

さて、見返りを期待したり、何か魂胆があつたりすれば、正確には布施とはならないのです。

ただ、浄土真宗では、こうした布施を善根を積んで悟りに近づくための修行とはせず、ひたすら阿弥陀如来のお

救いを慶び感謝する報謝行としています。すなわち、御布施は僧侶への“報酬”ではなく、如来さまへの報謝として捧げるものなのです。

ポイント
●御布施は、仏法を慶ぶ気持ちから上げるもの。
●僧侶への御礼ではなく、如来さまへの報謝。

「仏事のイロハ」末本弘然著 本願寺出版社刊より

「住職談」この「御布施」に関することは、皆様からの質問のベスト3に入ります。「御布施は報謝」という施す側の姿勢もあります。が、私たち僧侶にも「施されている」という姿勢も同じように問われているのだと感じてなりません。

頂いて当たり前ではなく、襟を正したいものです。



～住職 子育て日記～

おかげさまで、昨年末授かった我が家の娘も、もうすぐ10ヶ月になります。坊守(妻)と共に子育てに奮闘中です。ご覧のように、つかまり立ちも身につき、歩行器を使って、つかまり歩きも少し始めたところですよ。離乳食も三回食になりました。周りにある物や大人の持ち物など何でも興味持ってさわるので大変です。



笑ったり泣いたり叫んだりと大変な毎日ですが、赤ちゃんがパパママを“疑うことなく頼りきる。”という姿は、人間と阿弥陀さまとの関係にも共通しています。浄土真宗は、阿弥陀さまを“疑うことなく頼りきる。”ということが、まず信心をいただく姿勢だと言われます。

万行寺 親鸞聖人750回大遠忌法要のご案内

毎年恒例の「万行寺報恩講法要」が来月に迫りました。10月の最終日曜日ということで、今年は10月28日になります。

今年の報恩講は、併せて「親鸞聖人750回大遠忌法要」をお勤め致します。本山での法要も終わり、法要にお会い出来なかった方々にもということで、一般寺院での法要をすすめています。貴重なご縁です。是非ともご参拝下さい。

詳細は、万行寺からご縁の方にはご案内を差し上げます。

編集後記

いつもの「本願寺の本」の欄に、「住職 子育て日記」を不定期に載せていくことにしました。「本願寺の本」が基本になりますが、気づいたことなどあればという感じになります。写真も入れながら娘の成長をお伝えする中で、感じることを書いていこうと思つています。◆今までの暑さがいつの間にか去り、めっきり涼しくなりました。今年の夏は育児に追われるばかりで、なかなか季節を感じる事が出来なかつたようです。来年は、娘を連れていけるんな所に出かけようと思えます。

